

実施報告書

記入例：テーマ「光」

1. 確認事項等

施設番号	66-〇〇〇〇		
施設名	BunBu学院Jr.中目黒園		
施設所在地	東京都目黒区青葉台1-15-14		
法人名	株式会社BunBuKids		
活動期間	令和 7 年 6 月 から 令和 8 年 3 月		
活動内容の公表	<input checked="" type="checkbox"/>	活動報告書を作成し、園のホームページ等で公表した。	
		公表したホームページ等のURL	https://niliabunny.com/nakameguro/

2. 活動報告（注1）

番号	1					
テーマ	五感					
実施回数・期間 (注2)	合計1回（内訳：12月1回）/令和7年12月2日					
対象クラス・ 対象人数	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス
					7人	8人
活動内容 (注3)	<p>昨年に続き、今年度も松竹芸能の笑福亭茶光さんを招き、落語を披露してもらう。そしてその後は、自分の行いたい演目を選び練習して発表会で親御様に披露した。落語という日本古来の文化に触れ、またストーリーを自分の中に落とし込み覚えて披露する。多くの経験を経て学びが深められた。</p>					
活動における チェックリスト	<input checked="" type="checkbox"/>	グループ単位での活動等により、乳幼児同士の対話、関わりを促した。				
		<p>※乳幼児同士の関わりを促すためにどのような工夫をしたか 年長さんが発表会で披露する小話を、各クラスの子どもや職員に披露して回った。乳児クラスの子どもも年長児の小話をしっかりと聞いている様子が伺えた。</p>				
	<input checked="" type="checkbox"/>	活動中の乳幼児の言葉、表情、ジェスチャー等の表現に着目し、メモ・写真・映像等で記録した。				
		<p>※記録をどのように行ったか 活動の様子を写真で取り、後日HPやインスタにその日の様子をアップした。保護者からも貴重な経験が出来た事で感謝の声をいただいた。</p>				
	<input checked="" type="checkbox"/>	乳幼児一人ひとりが主体的に活動できるよう配慮した声掛け等を行った。				
		<p>※主体的な活動のためにどのような工夫をしたか 自分の披露したい演目を自分で選び小話の内容をじっくりと覚えていった。</p>				
	<input checked="" type="checkbox"/>	記録をもとに、乳幼児の関心や発見、表現を振り返った。				
		<p>※振り返りの実施方法 職員会議等で、職員同士反省や改善点などを話し合った。記録をもとに、子どもたち一人ひとりの興味や関心が広がるよう、次の活動へのヒントになるアイデアを出し合った。</p>				
	<input checked="" type="checkbox"/>	幼稚園等の各施設の教諭同士や保護者等に、探究活動の内容を共有した。				
		<p>※教諭や保護者等への共有方法 発表会で保護者に対して披露した。また園のすくわくコーナーを設け、探究活動の様子を周知した。加えて、園のホームページやインスタにおいても活動内容を随時掲載した。</p>				
<input checked="" type="checkbox"/>	次の探究活動の更なる充実に向け、新たな問いや環境の構成を考えた。					
	<p>※継続的な実施のための工夫 日本の古き良き文化を身近に感じる事が出来た。着物や扇子などの小道具にも興味を持ち、この事がきっかけで歴史や偉人にも興味を持っている子が増えた。今後も色々な歴史や文化に触れていきたい。</p>					

(注1) 活動報告は、複数の活動内容を実施した場合は、活動ごとに記入してください。

(注2) 「実施回数・期間」欄には、今年度に継続的（月を単位とする複数月）に実施した取組の実施状況を記入してください。なお、原則、単発で実施した取組については対象になりません。

(注3) 「活動内容」欄には、どのような取組を行ったのかがわかるよう記入してください。また、活動報告書等、取組を行ったことがわかる書類の写しを提出してください。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-〇〇〇〇
施設名	BunBu学院Jr.中目黒園
施設所在地	東京都目黒区青葉台1-15-14
法人名	株式会社BunBuKids

1. 活動のテーマ

<テーマ>

五感

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
昨年に続き、今年度も松竹芸能の笑福亭茶光さんを招き、落語を披露してもらう。そしてその後は、自分の行いたい演目を選び練習して発表会で親御様に披露した。落語という日本古来の文化に触れ、またストーリーを自分の中に落とし込み覚えて披露する。多くの経験を経て学びが深められた。またこれをきっかけに日本の文化や伝統にも興味を持ち始めていた。

2. 活動スケジュール

10/28 11:00～ 笑福亭茶光さんによる落語披露
1/24 9:30～ 親御様と茶光を招き、自分たちの落語を披露する

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
一度、手本として茶光さんの落語を観る。その後、自分の行いたい小話を選び、繰り返し練習する。発表会が近づく中で、実際に着物を羽織り、小道具も使い、各クラスの子どもや職員に披露する。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

練習を重ね、色々な人に披露する事で、少しずつタイミングや間の取り方を学んでいった。人前で話をする緊張も場数を踏むに連れて和らいでいく。発表会当日は多くの人が見守る中で堂々と披露していた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

小話を友達同士で披露し合い、お互いの良い所や改善点も話合えた。また、小さい子にも披露する事で小さい子も日本の伝統的な文化を目の当たりにした。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

日本の古き良き伝統を受け継ぎ伝えていく事の大切さを改めて感じた。同時に子ども達色々な事に興味や関心を示し、また活動をきっかけに日本の歴史や歴史上の偉人にも興味を持ち、経験が新たな興味や関心へと繋がっていている事を実感した。

実施報告書

1. 確認事項等

施設番号	66-〇〇〇〇		
施設名	BunBu学院Jr.中目黒園		
施設所在地	東京都目黒区青葉台1-15-14		
法人名	株式会社BunBuKids		
活動期間	令和	6	年 9 月 から 令和 7 年 3 月
活動内容の公表	<input checked="" type="checkbox"/>	活動報告書を作成し、園のホームページ等で公表した。	
		公表したホームページ等のURL	

2. 活動報告（注1）

番号	1											
テーマ	五感											
実施回数・期間 (注2)	合計5回（内訳：9月1回、10月1回、11月2回、12月1回）/令和7年9月から令和7年12月まで											
対象クラス・ 対象人数	0歳児クラス		1歳児クラス		2歳児クラス		3歳児クラス		4歳児クラス		5歳児クラス	
	0	人	0	人	0	人	0	人	7	人	0	人
活動内容 (注3)												
	<input checked="" type="checkbox"/>	グループ単位での活動等により、乳幼児同士の対話、関わりを促した。										
	<p>※乳幼児同士の関わりを促すためにどのような工夫をしたか</p> <p>カフェ体験では、子どもたち同士で感じたことや気づきを伝え合えるよう、見学や試飲の際に「どんな匂いがする？」「どんな味かな？」などの問いかけを行いました。また、友達の発見や感想を聞くことで新たな気づきにつながるよう、グループで一緒に見学する時間を設けました。子どもたちが互いの意見を共有しながら体験できるような環境づくりを行いました。</p>											
	<input checked="" type="checkbox"/>	活動中の乳幼児の言葉、表情、ジェスチャー等の表現に着目し、メモ・写真・映像等で記録した。										
	<p>※記録をどのように行ったか</p> <p>活動中は保育者が子どもたちの表情や言葉、仕草などに着目し、写真やメモで記録しました。コーヒー豆の香りを嗅いだ時の驚いた表情や、「いい匂い！」「どうして色が変わるの？」といった発言などを記録し、後の振り返りや保護者への共有に活用しました。また、活動の流れが分かるよう写真を中心に記録を残しました。</p>											
	<input checked="" type="checkbox"/>	乳幼児一人ひとりが主体的に活動できるよう配慮した声掛け等を行った。										
	※主体的な活動のためにどのような工夫をしたか											

活動における チェックリスト	子どもたちが主体的に参加できるよう、事前に「コーヒーってどんなもの?」「カフェではどんなことをしているのかな?」と話し合う時間を設けました。また、見学の際には子どもたちの疑問や気づきを大切に、質問できる機会を作りました。さらに、コーヒー開発の取り組みでは子どもたちの意見や発想を取り入れながら進めることで、主体的に関わる体験となるよう工夫しました。	
	✓	記録をもとに、乳幼児の関心や発見、表現を振り返った。
	※振り返りの実施方法 園に戻った後、子どもたちと一緒に「どんな匂いがした?」「どんなことが面白かった?」などの問いかけを行い、体験を振り返る時間を設けました。子どもたちは見たことや感じたことを思い出しながら話し、体験を共有していました。また、保育者同士でも写真や記録をもとに振り返りを行い、子どもたちの気づきや学びについて共有しました。	
	✓	幼稚園等の各施設の教諭同士や保護者等に、探究活動の内容を共有した。
	※教諭や保護者等への共有方法 活動の様子は、写真とともに園のホームページやSNS、園の連絡システムを通して保護者へ共有しました。また、お迎えの際にも子どもたちの体験した内容や様子を保護者へ伝え、家庭でも話題が広がるようにしました。	
	✓	次の探究活動の更なる充実に向け、新たな問いや環境の構成を考えた。
※継続的な実施のための工夫 今回のカフェ体験をきっかけに、食べ物ができるまでの過程やお店の仕事について関心が広がるよう、園でも食育や地域のお店に関する活動を取り入れていきます。また、夏フェスで保護者へコーヒーを提供する機会を設けることで、子どもたちが体験したことを共有し、学びを深める活動につなげていきました。		

(注1) 活動報告は、複数の活動内容を実施した場合は、活動ごとに記入してください。

(注2) 「実施回数・期間」欄には、今年度に継続的(月を単位とする複数月)に実施した取組の実施回数を記入してください。なお、原則、単発で実施した取組については対象になりません。

(注3) 「活動内容」欄には、どのような取組を行ったのかがわかるよう記入してください。また、活動報告書等、取組を行ったことがわかる書類の写しを提出してください。

2. 活動報告(注1)

番号	2					
テーマ						
実施回数・期間 (注2)						
対象クラス・ 対象人数	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス
	人	人	人	人	人	人
活動内容 (注3)						
	グループ単位での活動等により、乳幼児同士の対話、関わりを促した。					
	※乳幼児同士の関わりを促すためにどのような工夫をしたか					

活動における チェックリスト	活動中の乳幼児の言葉、表情、ジェスチャー等の表現に着目し、メモ・写真・映像等で記録した。
	※記録をどのように行ったか
	乳幼児一人ひとりが主体的に活動できるよう配慮した声掛け等を行った。
	※主体的な活動のためにどのような工夫をしたか
	記録をもとに、乳幼児の関心や発見、表現を振り返った。
	※振り返りの実施方法
	幼稚園等の各施設の教諭同士や保護者等に、探究活動の内容を共有した。
	※教諭や保護者等への共有方法
次の探究活動の更なる充実に向け、新たな問いや環境の構成を考えた。	
※継続的な実施のための工夫	

(注1) 活動報告は、複数の活動内容を実施した場合は、活動ごとに記入してください。

(注2) 「実施回数・期間」欄には、今年度に継続的(月を単位とする複数月)に実施した取組の実施状況を記入してください。なお、原則、単発で実施した取組については対象になりません。

(注3) 「活動内容」欄には、どのような取組を行ったのかがわかるよう記入してください。また、活動報告書等、取組を行ったことがわかる書類の写しを提出してください。

2. 活動報告（注1）

番号	3											
テーマ												
実施回数・期間 (注2)												
対象クラス・ 対象人数	0歳児クラス		1歳児クラス		2歳児クラス		3歳児クラス		4歳児クラス		5歳児クラス	
		人		人		人		人		人		人
活動内容 (注3)												
活動における チェックリスト	グループ単位での活動等により、乳幼児同士の対話、関わりを促した。											
	※乳幼児同士の関わりを促すためにどのような工夫をしたか											
	活動中の乳幼児の言葉、表情、ジェスチャー等の表現に着目し、メモ・写真・映像等で記録した。											
	※記録をどのように行ったか											
	乳幼児一人ひとりが主体的に活動できるよう配慮した声掛け等を行った。											
	※主体的な活動のためにどのような工夫をしたか											
	記録をもとに、乳幼児の関心や発見、表現を振り返った。											
	※振り返りの実施方法											
幼稚園等の各施設の教諭同士や保護者等に、探究活動の内容を共有した。												
※教諭や保護者等への共有方法												
次の探究活動の更なる充実に向け、新たな問いや環境の構成を考えた。												
※継続的な実施のための工夫												

(注1) 活動報告は、複数の活動内容を実施した場合は、活動ごとに記入してください。

(注2) 「実施回数・期間」欄には、今年度に継続的(月を単位とする複数月)に実施した取組の実施状況を記入してください。なお、原則、単発で実施した取組については対象になりません。

(注3) 「活動内容」欄には、どのような取組を行ったのかがわかるよう記入してください。また、活動報告書等、取組を行ったことがわかる書類の写しを提出してください。

別シート「活動報告書」も作成してください

「公表したホームページ等のURL」欄には、法人のホームページのトップページではなく、とうきょうすくわくプログラム推進事業の実施内容が確認できるURLを記載してください。

犬況

テーマが複数ある場合は、下記活動報告を使用してください。

犬況

犬況

テーマが4つ以上ある場合は、各活動報告をコピーして作成してください。



-ジのURL
ページの



)

)

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-〇〇〇〇
施設名	BunBu学院Jr.中目黒園
施設所在地	東京都目黒区青葉台1-15-14
法人名	株式会社ニリア・バニー

1. 活動のテーマ

<テーマ>

五感

<テーマの設定理由>

子どもたちは日頃の散歩の中で、地域にあるお店やカフェに興味を持つ姿が見られていました。「ここは何のお店?」「いい匂いがするね」といった声もあり、食べ物やお店の仕事への関心が高まっていました。そこで今回は、中目黒にあるカフェ「アメージングコーヒー」を訪れ、コーヒーができるまでの工程やお店の仕事について学ぶ体験を計画しました。香りや味、音など五感を使いながら学び、地域とのつながりを感じる探究活動としてテーマを設定しました。

2. 活動スケジュール

- ・事前活動：コーヒーやカフェについての話し合い
- ・アメージングコーヒーへ訪問
- ・お店の方への挨拶
- ・コーヒー豆や焙煎についての説明
- ・焙煎や作業の見学
- ・ノンカフェインコーヒーの試飲体験
- ・子どもたちのアイデアを取り入れたコーヒー開発の取り組み

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

事前に子どもたちとカフェやコーヒーについて話し合い、どのように作られているのかを想像する時間を設けました。また、カフェでのマナーや見学の際の約束事についても確認しました。当日は、お店の方にご協力いただき、焙煎機やコーヒー豆など実際の道具を見ることができる環境を整えていただきました。香りや音などを感じながら体験できるよう、子どもたちが近くで見学できる形で活動を行いました。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

中目黒にあるアメージングコーヒーを訪れ、コーヒーができるまでの工程について教えていただきました。子どもたちはコーヒー豆を見たり、焙煎の様子を見学したりしながら、香りや音などを感じる体験をしました。また、ノンカフェインのコーヒーを試飲し、味や香りを楽しみました。さらに、お店の方と一緒に新しいコーヒーの開発にも取り組み、子どもたちのアイデアを取り入れながらオリジナルコーヒーづくりを体験しました。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

子どもたちは店内に入ると「いい匂いがする!」「これがコーヒー豆?」と興味津々の様子でした。焙煎機が動く様子を見ると「音がするね」「どうして色が変わるの?」と疑問を口にする姿も見られました。試飲の際には「少し大人の味がする」「香りがいいね」と友達同士で感想を伝え合っていました。保育者は子どもたちの気づきに寄り添いながら言葉を広げ、五感で感じたことを共有できるよう関わりました。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

今回の体験を通して、子どもたちは普段身近にあるお店の仕事や食べ物の作られ方に興味を持つ様子が見られました。実際に見て、香りを感じ、味わう体験をすることで、子どもたちの理解や関心が深まることを改めて感じました。また、地域のお店との関わりを通して、社会や仕事についての興味も広がる活動となりました。今後も地域資源を活用しながら、子どもたちの探究心を育てる活動を継続していきたいと思えます。

実施報告書

記入例：テーマ「光」

1. 確認事項等

施設番号	66-〇〇〇〇		
施設名	BunBu学院Jr.中目黒園		
施設所在地	東京都目黒区青葉台1-15-14		
法人名	株式会社BunBuKids		
活動期間	令和 7 年 8 月 から 令和 8 年 3 月		
活動内容の公表	<input checked="" type="checkbox"/>	活動報告書を作成し、園のホームページ等で公表した。	
		公表したホームページ等のURL	https://niliabunny.com/nakameguro/

2. 活動報告（注1）

番号	1					
テーマ	五感					
実施回数・期間 (注2)	イベント合計1回/令和7年10月6日					
対象クラス・ 対象人数	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス
					7人	8人
活動内容 (注3)	講師を招き「キッズヨガ」を実施しました。子どもたちは動物や自然をイメージしたポーズを楽しみながら、体を動かしたり呼吸を感じたりする体験をしました。音楽や物語の要素も取り入れ、遊びの延長としてヨガに親しめるよう工夫しました。友達と一緒にポーズを真似したり見せ合ったりしながら、笑顔いっぱいの活動となりました。					
活動における チェックリスト	<input checked="" type="checkbox"/>	グループ単位での活動等により、乳幼児同士の対話、関わりを促した。				
		※乳幼児同士の関わりを促すためにどのような工夫をしたか 子ども同士で向かい合って行うポーズや、円になって行う動きを取り入れ、自然と友達の姿を見たり真似したりできるようにしました。 また、「〇〇さんのポーズを見てみよう」「一緒にやってみよう」と保育者が声をかけることで、友達の存在を意識しながら活動できる環境を作りました。 互いの姿を見て笑い合ったり真似をしたりする姿が見られ、楽しみながら関わりが生まれて				
	<input checked="" type="checkbox"/>	活動中の乳幼児の言葉、表情、ジェスチャー等の表現に着目し、メモ・写真・映像等で記録した。				
		※記録をどのように行ったか 活動の様子を写真で取り、後日HPやインスタにその日の様子をアップした。保護者からも貴重な経験が出来た事で感謝の声をいただいた。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	乳幼児一人ひとりが主体的に活動できるよう配慮した声掛け等を行った。				
		※主体的な活動のためにどのような工夫をしたか 子どもたちが自分から体を動かしたくなるよう、動物のポーズ(ねこ・犬・木など)を取り入れ、イメージしやすい形に進めました。 また、ポーズの名前を子どもたちに問いかけたり、「次はどんなポーズをしてみたい?」と声をかけたりすることで、子ども自身が考えて参加できるようにしました。 正しくできることよりも「やってみたい」という気持ちを大切に、自由に体を動かせる雰囲気づくりを心がけました。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	記録をもとに、乳幼児の関心や発見、表現を振り返った。				
		※振り返りの実施方法 活動後、保育者同士で写真やメモを見ながら振り返りを行いました。 子どもたちが興味を示したポーズや、楽しそうだった場面、難しそうにしていた場面などを共有し、今後の活動に活かせる点を話し合いました。 また、子どもたちにも「どのポーズが楽しかった?」と問いかけ、簡単な感想を聞く時間を設けました。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	幼稚園等の各施設の教諭同士や保護者等に、探究活動の内容を共有した。				
		※教諭や保護者等への共有方法 活動の様子は、写真とともに園のホームページやSNS、園の連絡システムを通して保護者に共有しました。 また、お迎えの際にも活動の様子や子どもたちの反応を直接お伝えし、家庭でも話題にさせていただくようにしました。				
<input checked="" type="checkbox"/>	次の探究活動の更なる充実に向け、新たな問いや環境の構成を考えた。					
	※継続的な実施のための工夫					

今回の活動で子どもたちが興味を示した動物のポーズやリラクスの時間を、日常の保育の中にも取り入れていきます。
また、音楽や絵本と組み合わせたヨガ遊びなど、子どもたちがより楽しく参加できる方法を検討していきます。
継続して取り組むことで、体を動かす楽しさや心身のリラクスを感じられる活動として発展させていきたいと考えています。

(注1) 活動報告は、複数の活動内容を実施した場合は、活動ごとに記入してください。

(注2) 「実施回数・期間」欄には、今年度に継続的(月を単位とする複数月)に実施した取組の実施状況を記入してください。なお、原則、単発で実施した取組については対象になりません。

(注3) 「活動内容」欄には、どのような取組を行ったのかがわかるよう記入してください。また、活動報告書等、取組を行ったことがわかる書類の写しを提出してください。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-〇〇〇〇
施設名	BunBu学院Jr.中目黒園
施設所在地	東京都目黒区青葉台1-15-14
法人名	株式会社BunBuKids

1. 活動のテーマ

<テーマ>

五感

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

日頃から子どもたちは体を動かす遊びが大好きで、ジャンプしたり体を伸ばしたりする姿が多く見られます。一方で、体をゆっくり伸ばしたり呼吸を意識したりする機会はあまり多くありません。そこで、遊びの延長の中で体を動かしながら、呼吸や体の動きを感じる体験として「キッズヨガ」を取り入れました。

また、動物や自然をイメージしたポーズを取り入れることで、子どもたちが興味を持ちやすく、想像力を働かせながら楽しめる活動になると考えました。友達と一緒に体を動かしながら、心身のリラックスや体を動かす楽しさを感じられる機会として実施しました。

2. 活動スケジュール

- ①ヨガ講師の紹介、活動の導入
- ②簡単なストレッチや呼吸を体験
- ③動物や自然をイメージしたヨガポーズ（ねこ・いぬ・木など）
- ④友達と一緒にやるペアポーズ
- ⑤ゆったりと体を休めるリラックスタイム
- ⑥活動の振り返りや感想の共有

子どもたちが無理なく楽しめるよう、動きのあるポーズとゆったりした時間を交互に取り入れながら進めました。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

子どもたちが安全に体を動かせるよう、広いスペースを確保し床にマットを敷いて環境を整えました。

また、ポーズをイメージしやすいよう動物のイラストカードを用意し、「ねこのポーズ」「木のポーズ」など視覚的にも分かりやすいようにしました。

活動中は落ち着いた音楽を流し、ゆったりとした雰囲気の中で体を動かせるよう環境を整えました。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

講師の指導のもと、子どもたちは動物や自然をイメージしたヨガのポーズに挑戦しました。保育者も一緒に参加し、子どもたちと同じ目線で体を動かしながら活動を進めました。最初は講師の動きを真似するところから始まりましたが、次第に「こんなポーズもできるよ」と自分なりに体を動かす姿も見られました。友達の姿を見ながら真似をしたり、できたことを喜び合ったりする姿もあり、楽しく体を動かす時間となりました。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

子どもたちは講師や保育者の動きを見ながら、楽しそうに体を動かしていました。「見て！できたよ」「ねこみたい！」などの声が聞かれ、ポーズができると嬉しそうな表情を見せていました。また、友達のポーズを見て笑い合ったり、「一緒にやろう」と声をかけたりする姿も見られました。バランスが難しいポーズでは、保育者がそっと支えたり声をかけたりすることで安心して取り組むことができていました。活動の最後には、静かに横になって体を休める時間も楽しんでいました。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

活動後の振り返りでは、子どもたちが動物のポーズに特に興味を示していたことや、友達の姿を見て自然に真似をする様子が多く見られたことが共有されました。また、ゆったりと呼吸をする時間では、最初は落ち着かない様子もありましたが、徐々にリラックスした表情が見られたことも印象的でした。

今回の活動を通して、体を動かす楽しさだけでなく、ゆっくり体を伸ばしたり呼吸を感じたりする時間も子どもたちにとって大切な経験であることに気づきました。今後も日常の保育の中で簡単なヨガの動きを取り入れ、子どもたちが楽しみながら体と向き合える活動を続けていきたいと考えています。

実施報告書

記入例：テーマ「光」

1. 確認事項等

施設番号	66-〇〇〇〇		
施設名	BunBu学院Jr.中目黒園		
施設所在地	東京都目黒区青葉台1-15-14		
法人名	株式会社BunBuKids		
活動期間	令和 7 年 6 月 から 令和 8 年 3 月		
活動内容の公表	<input checked="" type="checkbox"/>	活動報告書を作成し、園のホームページ等で公表した。	
		公表したホームページ等のURL	https://niliabunny.com/nakameguro/

2. 活動報告（注1）

番号	1					
テーマ	五感					
実施回数・期間 (注2)	合計1回/令和7年11月27日					
対象クラス・ 対象人数	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス
	人	人	人	人	7人	8人
活動内容 (注3)	<p>自然体験施設「わくわくビレッジ」を訪れ、飯合炊飯の体験を行った。子どもたちは、火を使ってご飯を炊く様子を見たり、煙のにおいや炊き上がる香りを感じたりしながら、普段の生活ではなかなか体験できない自然の中での調理過程を観察した。炊き上がるまでの時間も、友だちと一緒に「煙が出ているね」「いいにおいがするね」など会話をしながら、興味深く見守る姿が見られた。炊き上がったご飯をみんなで味わうことで、自然の中で食べる楽しさや食べ物への関心を深める機会となった。子どもたちにとって、五感を使いながら自然や食について学ぶ貴重な体験となった。</p>					
活動における チェックリスト	<input checked="" type="checkbox"/>	グループ単位での活動等により、乳幼児同士の対話、関わりを促した。				
		<p>※乳幼児同士の関わりを促すためにどのような工夫をしたか 活動では子ども同士で声を掛け合いながら取り組めるよう、グループで行動する時間を設けた。飯合炊飯では「火を見てみよう」「お米はどうなっているかな」など友だち同士で気付いたことを共有できるようにした。また、順番に役割を体験できるようにすることで、友だちの様子を見たり応援したりする場面が自然に生まれ、子ども同士の関わりが広がるよう工夫した。</p>				
	<input checked="" type="checkbox"/>	活動中の乳幼児の言葉、表情、ジェスチャー等の表現に着目し、メモ・写真・映像等で記録した。				
		<p>※記録をどのように行ったか 活動中の子どもたちの表情や言葉、驚きや発見の様子を保育者がメモで記録するとともに、写真や動画で記録を残した。特に、火を見た時の反応や炊き上がったご飯を見た時の喜びの表情など、子どもたちの感情や気付きが表れている場面を中心に撮影した。記録は活動後に保育者間で共有し、振り返りや保護者への発信に活用した。</p>				
	<input checked="" type="checkbox"/>	乳幼児一人ひとりが主体的に活動できるよう配慮した声掛け等を行った。				
		<p>※主体的な活動のためにどのような工夫をしたか 子どもたちが自分から興味を持って参加できるよう、事前に自然体験やキャンプについて話をしたり、写真などを見ながら活動への期待感を高めた。当日は、実際に火や道具を見たり、炊飯の様子を観察したりする時間を設け、子どもたちの「やってみたい」「見てみたい」という気持ちを大切にしながら活動を進めた。</p>				
	<input checked="" type="checkbox"/>	記録をもとに、乳幼児の関心や発見、表現を振り返った。				
	<p>※振り返りの実施方法 活動後に保育者同士で写真や記録を見ながら振り返りを行い、子どもたちの興味や反応、安全面について共有した。また、子どもたちとも「ご飯どうだった？」「火はどうだった？」など会話を通して振り返りを行い、体験したことを言葉にする機会を設けた。</p>					
<input checked="" type="checkbox"/>	幼稚園等の各施設の教諭同士や保護者等に、探究活動の内容を共有した。					
	<p>※教諭や保護者等への共有方法 活動の様子はHPやSNS、園の連絡システムを通して写真とともに発信した。また、お迎えの際には当日の子どもたちの様子や体験したことを保護者へ直接伝え、家庭でも会話が広がるよう共有した。</p>					

✓	次の探究活動の更なる充実に向け、新たな問いや環境の構成を考えた。
※継続的な実施のための工夫 今回の体験を通して、火や自然、食べ物への興味が高まった様子が見られたため、今後も自然体験や食育活動へとつなげていく予定である。季節の自然に触れる活動や、食べ物がどのようにできるかを知る体験を継続的に取り入れ、子どもたちの探究心を育てていきたい。	

(注1) 活動報告は、複数の活動内容を実施した場合は、活動ごとに記入してください。

(注2) 「実施回数・期間」欄には、今年度に継続的(月を単位とする複数月)に実施した取組の実施状況を記入してください。なお、原則、単発で実施した取組については対象になりません。

(注3) 「活動内容」欄には、どのような取組を行ったのかがわかるよう記入してください。また、活動報告書等、取組を行ったことがわかる書類の写しを提出してください。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-〇〇〇〇
施設名	BunBu学院Jr.中目黒園
施設所在地	東京都目黒区青葉台1-15-14
法人名	株式会社BunBuKids

1. 活動のテーマ

<テーマ>

五感

<テーマの設定理由>

本園では、子どもたちが実際の体験を通して学びを深めることを大切にしている。日頃から食べ物や自然に興味を示す子どもたちの姿が見られたため、自然の中での体験活動として「わくわくビレッジ」での飯合炊飯を企画した。火を使ってご飯を炊く体験や自然環境の中での活動を通して、子どもたちが五感を使いながら新しい発見や気づきを得ることをねらいとした。

2. 活動スケジュール

①出発・現地到着
わくわくビレッジへ移動し、施設の説明や安全確認を行った。

②体験活動
飯合炊飯の様子を観察しながら、火の様子や炊き上がるまでの過程を体験した。

③食事・交流
炊き上がったご飯を味わいながら、自然の中で食事を楽しんだ。

④振り返り
園に戻ってから子どもたちと体験を振り返る時間を設けた。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

飯合炊飯に必要な道具や材料は施設側と連携して準備し、安全に体験できる環境を整えた。子どもたちが火や炊飯の様子を見やすい位置から観察できるよう配置を工夫し、保育者が側で見守りながら活動を行った。また、小さな子どもも同じ場の雰囲気を感じられるよう配慮した。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

活動では、子どもたちが火の様子や炊き上がる過程を観察しながら体験を行った。「煙が出ているね」「いい匂いがするね」などの声も聞かれ、五感を通して自然や食への興味を広げる姿が見られた。保育者は子どもたちの気付きに寄り添いながら声掛けを行い、探究心を引き出すよう関わった。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

活動中は、火を見て「すごい」「あったかいね」など驚きの声を上げる姿や、ご飯が炊き上がる様子を興味深く見つめる姿が見られた。友だちと一緒に「煙が出てる」「いい匂いだね」と会話を交わす場面も多く見られ、体験を共有することで子ども同士の関わりが広がっていた。保育者は子どもたちの発見や気付きを言葉にしながらかん感じ、安心して体験できるよう見守った。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

今回の活動では、実際に自然の中で体験することで子どもたちの興味関心が大きく広がる様子が見られた。特に火や食べ物に対する関心が高く、「どうやってできるの?」といった疑問も多く見られた。今後もこの体験をきっかけに、食育活動や自然体験などへとつなげ、子どもたちの探究心を継続的に育てていきたいと感じた。

■ 活動報告書を作成して園のホームページ等で公表してください。

■ 活動報告書は任意の様式で作成していただいても構いませんが、
下記の内容を盛り込んでください。

- ・ 活動のテーマ
- ・ テーマの設定理由
- ・ 活動スケジュール
- ・ 活動のために準備した素材や道具、環境の設定
- ・ 活動の内容
- ・ 活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり
- ・ 活動の様子が分かる写真（2枚以上）
- ・ 振り返りによって得た先生の気づき



実施報告書

記入例：テーマ「光」

1. 確認事項等

施設番号	66-〇〇〇〇		
施設名	BunBu学院Jr.中目黒園		
施設所在地	東京都目黒区青葉台1-15-14		
法人名	株式会社BunBuKids		
活動期間	令和 7 年 8 月 から 令和 8 年 3 月		
活動内容の公表	<input checked="" type="checkbox"/>	活動報告書を作成し、園のホームページ等で公表した。	
		公表したホームページ等のURL	https://niliabunny.com/nakameguro/

2. 活動報告（注1）

番号	1					
テーマ	五感					
実施回数・期間 (注2)	イベント合計1回/令和7年8月4日					
対象クラス・ 対象人数	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス
	5人	10人	11人	11人	7人	8人
活動内容 (注3)	餅つきは子どもたちが順番に体験できるようにし、周りの子どもたちは「よいしょ」「がんばれ」と声を掛け合いながら応援する環境をつくった。餅つきの待ち時間には、鬼の飾りを一緒に見たり話したりすることで、自然と子ども同士の会話が生まれるようにした。また、小さいクラスの子どもたちも一緒に場で雰囲気を感じられるようにし、異年齢で同じ体験を共有できる機会とした。					
活動における チェックリスト	<input checked="" type="checkbox"/>	グループ単位での活動等により、乳幼児同士の対話、関わりを促した。				
		※乳幼児同士の関わりを促すためにどのような工夫をしたか 活動中の子どもたちの言葉や表情、ジェスチャーを保育者がメモで記録するとともに、写真や動画で記録を残した。餅つきを楽しみにしている様子や、鬼の飾りに驚いてしまう姿、餅を食べて嬉しそうにする表情などを撮影し、活動後に保育者間で共有した。これらの記録を振り返りに活用するとともに、保護者への発信にも活用した。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	活動中の乳幼児の言葉、表情、ジェスチャー等の表現に着目し、メモ・写真・映像等で記録した。				
		※記録をどのように行ったか 活動の様子を写真で取り、後日HPやインスタにその日の様子をアップした。保護者からも貴重な経験が出来た事で感謝の声をいただいた。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	乳幼児一人ひとりが主体的に活動できるよう配慮した声掛け等を行った。				
		※主体的な活動のためにどのような工夫をしたか 子どもたちが自分から参加したいと思えるよう、事前に餅つきについて保育の中で話題にし、興味関心を高めた。当日は無理に参加させるのではなく、子ども自身が「やってみたい」と感じたタイミングで餅つきを体験できるようにした。鬼の飾りなど季節の要素も取り入れることで、子どもたちが自ら気づきや会話を広げられるようにした。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	記録をもとに、乳幼児の関心や発見、表現を振り返った。				
		※振り返りの実施方法 活動後に保育者同士で写真や記録を見ながら振り返りを行い、子どもたちの反応や安全面、運営面について共有した。また、子どもたちとも「お餅つき楽しかったね」「鬼がいたね」など会話を通して振り返りを行い、体験の記憶を言葉にする機会を設けた。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	幼稚園等の各施設の教諭同士や保護者等に、探究活動の内容を共有した。				
		※教諭や保護者等への共有方法 活動の様子は、HPやSNS、園の連絡システムを通して写真とともに発信した。また、お迎えの際に保護者へ当日の子どもたちの様子を伝え、家庭でも会話が広がるようにした。				
<input checked="" type="checkbox"/>	次の探究活動の更なる充実に向け、新たな問いや環境の構成を考えた。					
	※継続的な実施のための工夫					

餅つきを通して、日本の伝統行事や季節行事への関心が高まるよう、今後も節分や食文化に関連した活動へつなげていく予定である。また、子どもたちが実際に食べ物に触れる体験や、行事を通して学ぶ機会を継続的に取り入れ、五感を使った体験活動として発展させていく。
--

（注1）活動報告は、複数の活動内容を実施した場合は、活動ごとに記入してください。

（注2）「実施回数・期間」欄には、今年度に継続的（月を単位とする複数月）に実施した取組の実施状況を記入してください。なお、原則、単発で実施した取組については対象になりません。

（注3）「活動内容」欄には、どのような取組を行ったのかがわかるよう記入してください。また、活動報告書等、取組を行ったことがわかる書類の写しを提出してください。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-〇〇〇〇
施設名	BunBu学院Jr.中目黒園
施設所在地	東京都目黒区青葉台1-15-14
法人名	株式会社BunBuKids

1. 活動のテーマ

<テーマ>

五感

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

本園では、子どもたちの興味関心や日々の生活の中で見られる気付きや疑問を大切にしながら活動のテーマを設定している。今回の活動は、子どもたちが日常の遊びや会話の中で興味を示していたことや、園ならではの体験環境を生かし、五感を通して学びを深めることを目的として企画した。

実際に見たり触れたりする体験を通して、子どもたちが「やってみたい」「知りたい」と感じる気持ちを育てるとともに、友だちや保育者との関わりの中で気付きや発見を共有できるようにすることをねらいとした。

2. 活動スケジュール

①導入

活動の前に、子どもたちへ活動内容について話をしたり、関連する絵本や写真を見たりすることで興味関心を高めた。

②体験活動

実際の活動を行い、子どもたちが見たり触れたりしながら体験できる時間を設けた。子ども同士で感想を言い合ったり、保育者が声掛けを行いながら活動を進めた。

③共有・まとめ

活動後には子どもたちと「どうだった?」「何が面白かった?」などの会話を行い、体験したことを振り返る時間を設けた。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

子どもたちが安全に体を動かせるよう、広いスペースを確保し床にマットを敷いて環境を整えました。

また、ポーズをイメージしやすいよう動物のイラストカードを用意し、「ねこのポーズ」「木のポーズ」など視覚的にも分かりやすいようにしました。

活動中は落ち着いた音楽を流し、ゆったりとした雰囲気の中で体を動かせるよう環境を整えました。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

活動当日は、子どもたちが順番に体験したり、近くで観察したりしながら活動を進めた。保育者は子どもたちの気付きや疑問を大切に、「どうしてだろうね」「どんな感じかな？」などの声掛けを行いながら、子どもたちの探究心を引き出すように関わった。子ども同士でも「すごいね」「やってみたい」などの会話が見られ、体験を共有しながら活動が広がっていった。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

活動中は、「やってみたい」「すごい」「もう一回やりたい」などの声が聞かれ、興味を持って取り組む姿が多く見られた。友だちが体験している様子を見て応援したり、「次はぼく」「わたしもやりたい」と順番を待つ姿も見られ、子ども同士の関わりが自然に生まれていた。保育者は子どもたちの発見や気付きに共感しながら言葉を掛け、安心して活動に参加できるように見守った。



(HP) 分かる写真 2枚 (HP) さい。 (HP) 性がありますので (HP) を使用ください。)

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

活動後には、写真や記録をもとに保育者同士で振り返りを行った。子どもたちは実際に体験することで興味関心が高まり、友だちと一緒に活動することで楽しさや発見が広がるのが改めて感じられた。また、子どもによって関心の向き方や参加の仕方に違いがあることも確認できたため、今後一人ひとりの気持ちを大切にしながら、主体的に参加できる環境づくりを行っていきたいと考える。

実施報告書

記入例：テーマ「光」

1. 確認事項等

施設番号	66-〇〇〇〇		
施設名	BunBu学院Jr.中目黒園		
施設所在地	東京都目黒区青葉台1-15-14		
法人名	株式会社BunBuKids		
活動期間	令和 7 年 6 月 から 令和 8 年 3 月		
活動内容の公表	<input checked="" type="checkbox"/>	活動報告書を作成し、園のホームページ等で公表した。	
		公表したホームページ等のURL	https://niliabunny.com/nakameguro/

2. 活動報告（注1）

番号	1					
テーマ	五感					
実施回数・期間 (注2)	合計1回（内訳：12月1回）/令和7年12月2日					
対象クラス・ 対象人数	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス
					7人	8人
活動内容 (注3)	<p>昨年に続き、今年度もプロの料理人を招いて間近で鯨の解体ショーを行った。事前学習として、調理スタッフが絵本やパネルで命を頂く事についての話をする。解体ショーでは、捌いた魚の部位（頭や内臓等）を全員が個別にしっかりと見る事が出来た。魚の匂いや包丁で捌く音、どれもが子どもの興味や関心が注がれる物ばかりで、終始集中して見守っていた。昼食は捌いた魚を早速頂いた。</p>					
活動における チェックリスト	<input checked="" type="checkbox"/>	グループ単位での活動等により、乳幼児同士の対話、関わりを促した。				
		※乳幼児同士の関わりを促すためにどのような工夫をしたか 解体ショーの後に昼食に捌いた魚が出た事もあり、リアルタイムで皆で振り返りを行った。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	活動中の乳幼児の言葉、表情、ジェスチャー等の表現に着目し、メモ・写真・映像等で記録した。				
		※記録をどのように行ったか 活動の様子を写真で取り、後日HPやインスタにその日の様子をアップした。保護者からも貴重な経験が出来た事で感謝の声をいただいた。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	乳幼児一人ひとりが主体的に活動できるよう配慮した声掛け等を行った。				
		※主体的な活動のためにどのような工夫をしたか 命を頂く事に感謝する気持ちが持てるように、事前学習や振り返りを丁寧に行った。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	記録をもとに、乳幼児の関心や発見、表現を振り返った。				
		※振り返りの実施方法 職員会議等で、職員同士反省や改善点などを話し合った。記録をもとに、子どもたち一人ひとりの興味や関心が広がるよう、次の活動へのヒントになるアイデアを出し合った。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	幼稚園等の各施設の教諭同士や保護者等に、探究活動の内容を共有した。				
		※教諭や保護者等への共有方法 保護者に対しては、園のすくわくコーナーを設け、探究活動の様子を周知した。加えて、園のホームページやインスタにおいても活動内容を随時掲載した。				
<input checked="" type="checkbox"/>	次の探究活動の更なる充実に向け、新たな問いや環境の構成を考えた。					
	※継続的な実施のための工夫 子どもたちと振り返りを行い、次にどんな活動を行いたいと話した。また、活動に連続性を持たせられるように、今回の学びを次回にも活かせるように環境設定を工夫し、引き続き食育活動を行って行く。					

（注1）活動報告は、複数の活動内容を実施した場合は、活動ごとに記入してください。

（注2）「実施回数・期間」欄には、今年度に継続的（月を単位とする複数月）に実施した取組の実施状況を記入してください。なお、原則、単発で実施した取組については対象になりません。

（注3）「活動内容」欄には、どのような取組を行ったのかがわかるよう記入してください。また、活動報告書等、取組を行ったことがわかる書類の写しを提出してください。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-〇〇〇〇
施設名	BunBu学院Jr.中目黒園
施設所在地	東京都目黒区青葉台1-15-14
法人名	株式会社BunBuKids

1. 活動のテーマ

<テーマ>

五感

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など) プロ
のマジシャンにきていただき、子どもたちに披露し、そのトリックを学び、今度は発表会で披露することで、子どもたちが表現力や科学の芽を成長させられたらと思い設定しました。

2. 活動スケジュール

10:00～
プロのマジシャンの方から、様々なマジックをご披露いただく
次に子どもたちがトリックを学ぶ
学んだトリックをその場でマジシャンの方に教えていただき試す

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
マジシャンの方の声が良く聞こえるように、首元にマイクを設置し、ご披露いただく。
トランプや、割りばしを利用したマジック、ハンカチーフを利用したマジックとなどご準備
いただく。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

マジックを初めて体験することもたちですが、身近な割りばしを使ったマジックや、トランプの数字を当てると、先生方が見ても、不思議なトリックにあふれていました。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

どうして変わったの？と子どもたちは興味を持ち、いろいろと試しながら、自分でもできるかを確認していました。

保護者様も、興味を持たれ、先生方もフォローしながらも、マジックのトリックを試そうとする姿が見られました。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

今回学んだマジックで、自分が試したいマジックを選び、そして発表会で披露することができました。

普段学ぶことがないマジックを教えていただき、こどもたちに新たな成長を見守ることができ、

マジックを通じて、披露するという自信を付けたようです。

■ 活動報告書を作成して園のホームページ等で公表してください。

■ 活動報告書は任意の様式で作成していただいても構いませんが、
下記の内容を盛り込んでください。

- ・ 活動のテーマ
- ・ テーマの設定理由
- ・ 活動スケジュール
- ・ 活動のために準備した素材や道具、環境の設定
- ・ 活動の内容
- ・ 活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり
- ・ 活動の様子が分かる写真（2枚以上）
- ・ 振り返りによって得た先生の気づき



実施報告書

記入例：テーマ「光」

1. 確認事項等

施設番号	66-〇〇〇〇		
施設名	BunBu学院Jr.中目黒園		
施設所在地	東京都目黒区青葉台1-15-14		
法人名	株式会社BunBuKids		
活動期間	令和 7 年 6 月 から 令和 8 年 3 月		
活動内容の公表	<input checked="" type="checkbox"/>	活動報告書を作成し、園のホームページ等で公表した。	
		公表したホームページ等のURL	https://niliabunny.com/nakameguro/

2. 活動報告（注1）

番号	1					
テーマ	五感					
実施回数・期間 (注2)	合計1回（内訳：12月1回）/令和7年12月15日					
対象クラス・ 対象人数	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス
					7人	8人
活動内容 (注3)	<p>茶道体験では、子ども同士で「お先にどうぞ」「ありがとう」と声を掛け合う場面を大切に、順番にお茶やお菓子をいただく流れを取り入れました。和菓子の感想を伝え合ったり、作法と一緒に確認したりすることで、自然と会話が生まれるようにしました。また、友達の様子を見ながら動くことで、相手を思いやる気持ちや協力する姿が見られるよう工夫しました。</p>					
活動における チェックリスト	<input checked="" type="checkbox"/>	グループ単位での活動等により、乳幼児同士の対話、関わりを促した。				
		<p>※乳幼児同士の関わりを促すためにどのような工夫をしたか</p> <p>活動中は、子どもたちの表情や言葉、所作の様子を写真とメモで記録しました。お茶をいただく時の真剣な表情や、和菓子を食べて驚く表情など、子どもたちの感じたことが伝わる瞬間を保育者が記録しました。また、後の振り返りができるよう、子どもたちの会話や気づきも簡単にメモとして残しました。</p>				
	<input checked="" type="checkbox"/>	活動中の乳幼児の言葉、表情、ジェスチャー等の表現に着目し、メモ・写真・映像等で記録した。				
		※記録をどのように行ったか				
	<input checked="" type="checkbox"/>	乳幼児一人ひとりが主体的に活動できるよう配慮した声掛け等を行った。				
		<p>※主体的な活動のためにどのような工夫をしたか</p> <p>子どもたちが自分で体験できるよう、茶碗の持ち方や挨拶の仕方を教わった後は、自分なりに挑戦する時間を設けました。「どんな味かな」「どんな匂いがするかな」と五感を意識した声掛けを行い、子どもたち自身が感じたことを言葉にできるようにしました。日本文化を“体験する”ことを大切に、子どもも主体で参加できる雰囲気づくりを行いました。</p>				
	<input checked="" type="checkbox"/>	記録をもとに、乳幼児の関心や発見、表現を振り返った。				
		<p>※振り返りの実施方法</p> <p>園に戻った後、子どもたちと一緒に「どんなことが楽しかった？」「お茶の味はどうだった？」などの問いかけを行い、体験を振り返る時間を設けました。子どもたちは感じたことを言葉にしながら、茶道体験を思い出していました。保育者同士でも写真を見ながら振り返りを行い、子どもたちの気づきや成長について共有しました。</p>				
	<input checked="" type="checkbox"/>	幼稚園等の各施設の教諭同士や保護者等に、探究活動の内容を共有した。				
		<p>※教諭や保護者等への共有方法</p> <p>活動の様子は写真と共に園のホームページやSNS、園の連絡システムを通して保護者へ共有しました。また、お迎えの際にも子どもたちの様子や感想を伝え、家庭でも体験の話題が広がるようにしました。</p>				
<input checked="" type="checkbox"/>	次の探究活動の更なる充実に向け、新たな問いや環境の構成を考えた。					
	※継続的な実施のための工夫					

今回の茶道体験をきっかけに、日本の伝統文化への興味が深まるよう、園でも和文化に触れる機会を設けていきます。和菓子や季節の行事、和室での遊びなどを取り入れながら、日本の文化や歴史に触れる活動を継続していく予定です。

（注1）活動報告は、複数の活動内容を実施した場合は、活動ごとに記入してください。

（注2）「実施回数・期間」欄には、今年度に継続的（月を単位とする複数月）に実施した取組の実施状況を記入してください。なお、原則、単発で実施した取組については対象になりません。

（注3）「活動内容」欄には、どのような取組を行ったのかがわかるよう記入してください。また、活動報告書等、取組を行ったことがわかる書類の写しを提出してください。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-〇〇〇〇
施設名	BunBu学院Jr.中目黒園
施設所在地	東京都目黒区青葉台1-15-14
法人名	株式会社BunBuKids

1. 活動のテーマ

<テーマ>

五感

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
めろん組では、落語の活動や世界の偉人について学ぶなど、文化や歴史に触れる活動を日頃から行っています。そこで今回は、日本の伝統文化の一つである「茶道」を体験することで、日本ならではの礼儀や美しさ、静かな空間の雰囲気を感じてもらいたいと考えました。普段とは違う和の空間の中で、五感を使いながら日本文化に親しむことを目的としてテーマを設定しました。

2. 活動スケジュール

- ・事前に茶道について簡単に紹介
- ・茶道体験の場所へ移動
- ・先生へ挨拶
- ・茶道の説明（作法や道具について）
- ・お茶を点てる様子を見学
- ・和菓子とお茶をいただく体験

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

茶道体験では、和室の静かな環境の中で活動を行いました。子どもたちが落ち着いて体験できるよう、事前に茶道の流れや簡単な挨拶の仕方を園で伝えました。また、初めて見る茶道具や和菓子に興味を持てるよう、事前に写真などで紹介し、期待感を高めました。伝統的な空間の雰囲気を感じながら、五感を使って体験できる環境を整えました。

■ 活動報告書を作成して園のホームページ等で公表してください。

■ 活動報告書は任意の様式で作成していただいても構いませんが、
下記の内容を盛り込んでください。

- ・ 活動のテーマ
- ・ テーマの設定理由
- ・ 活動スケジュール
- ・ 活動のために準備した素材や道具、環境の設定
- ・ 活動の内容
- ・ 活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり
- ・ 活動の様子が分かる写真（2枚以上）
- ・ 振り返りによって得た先生の気づき



実施報告書

記入例：テーマ「光」

1. 確認事項等

施設番号	66-〇〇〇〇	
施設名	BunBu学院Jr.中目黒園	
施設所在地	東京都目黒区青葉台1-15-14	
法人名	株式会社BunBuKids	
活動期間	令和 7 年 6 月 から 令和 8 年 3 月	
活動内容の公表	<input checked="" type="checkbox"/>	活動報告書を作成し、園のホームページ等で公表した。
	公表したホームページ等のURL	https://niliabunny.com/nakameguro/

2. 活動報告（注1）

番号	1					
テーマ	五感					
実施回数・期間 (注2)	合計1回（内訳：12月1回）/令和7年12月2日					
対象クラス・ 対象人数	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス
	5人	10人	11人	11人	7人	8人
活動内容 (注3)	<p>昨年に続き、今年度もプロの料理人を招いて間近で鯨の解体ショーを行った。事前学習として、調理スタッフが絵本やパネルで命を頂く事についての話をする。解体ショーでは、捌いた魚の部位（頭や内臓等）を全員が個別にしっかりと見る事が出来た。魚の匂いや包丁で捌く音、どれもが子どもの興味や関心が注がれる物ばかりで、終始集中して見守っていた。昼食は捌いた魚を早速頂いた。</p>					
活動における チェックリスト	<input checked="" type="checkbox"/>	グループ単位での活動等により、乳幼児同士の対話、関わりを促した。				
		※乳幼児同士の関わりを促すためにどのような工夫をしたか 解体ショーの後に昼食に捌いた魚が出た事もあり、リアルタイムで皆で振り返りを行った。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	活動中の乳幼児の言葉、表情、ジェスチャー等の表現に着目し、メモ・写真・映像等で記録した。				
		※記録をどのように行ったか 活動の様子を写真で取り、後日HPやインスタにその日の様子をアップした。保護者からも貴重な経験が出来た事で感謝の声をいただいた。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	乳幼児一人ひとりが主体的に活動できるよう配慮した声掛け等を行った。				
		※主体的な活動のためにどのような工夫をしたか 命を頂く事に感謝する気持ちが持てるように、事前学習や振り返りを丁寧に行った。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	記録をもとに、乳幼児の関心や発見、表現を振り返った。				
		※振り返りの実施方法 職員会議等で、職員同士反省や改善点などを話し合った。記録をもとに、子どもたち一人ひとりの興味や関心が広がるよう、次の活動へのヒントになるアイデアを出し合った。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	幼稚園等の各施設の教諭同士や保護者等に、探究活動の内容を共有した。				
		※教諭や保護者等への共有方法 保護者に対しては、園のすくわくコーナーを設け、探究活動の様子を周知した。加えて、園のホームページやインスタにおいても活動内容を随時掲載した。				
<input checked="" type="checkbox"/>	次の探究活動の更なる充実に向け、新たな問いや環境の構成を考えた。					
	※継続的な実施のための工夫 子どもたちと振り返りを行い、次にどんな活動を行いたいと話した。また、活動に連続性を持たせられるように、今回の学びを次回にも活かせるように環境設定を工夫し、引き続き食育活動を行っていく。					

（注1）活動報告は、複数の活動内容を実施した場合は、活動ごとに記入してください。

（注2）「実施回数・期間」欄には、今年度に継続的（月を単位とする複数月）に実施した取組の実施状況を記入してください。なお、原則、単発で実施した取組については対象になりません。

（注3）「活動内容」欄には、どのような取組を行ったのかがわかるよう記入してください。また、活動報告書等、取組を行ったことがわかる書類の写しを提出してください。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-〇〇〇〇
施設名	BunBu学院Jr.中目黒園
施設所在地	東京都目黒区青葉台1-15-14
法人名	株式会社BunBuKids

1. 活動のテーマ

<テーマ>

五感

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など) 命を
頂く事は私たちにとってなくてはならない行為である。時に動植物の命を奪う事で生かされて
いる事をしり、その事に感謝しなければならない。その為、様々な食育活動をしているが、目
の前で魚を捌くという体験は。普段ではなかなか経験出来ない。昨年度もプロの料理人の方
が来てくれたが、今年度も貴重な体験が出来るという事でお招きした。

2. 活動スケジュール

10:00～10:45 解体ショー、スタート (事前学習あり)
11:45～ 各クラスで捌いた魚を昼食時に食べる

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具) 事
前学習として絵本やパネルシアターで命を頂く事に意味を学ぶ。当日はリアルタイムで魚が捌
かれていく様子を見て、魚や血の匂い、包丁で捌く音や様子を目の当たりにした。また、捌
いた魚は昼食時に皆で頂いた。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

魚を捌き、頭や内臓の部位も取り出し、全員が見れるように、個別に各クラスを周り、麻間近で解体した魚を見る事が出来た。生の魚の血の匂いや魚の匂い、捌いた部位も近くで見る事が出来て、貴重な体験となった。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等) 捌く様子や魚の部位や血の匂いを間近で感じ、子ども同士口々に感想を言い合っていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

命を頂く事の重さを間近で感じる事が出来た。今後食事をするときには、生き物の命を頂く事への有難さを伝えていきたい。この経験を活かしながら今後の食育活動も行っていきたい。

実施報告書

記入例：テーマ「光」

1. 確認事項等

施設番号	66-〇〇〇〇		
施設名	BunBu学院Jr.中目黒園		
施設所在地	東京都目黒区青葉台1-15-14		
法人名	株式会社BunBuKids		
活動期間	令和 6 年 6 月 から 令和 7 年 3 月		
活動内容の公表	<input checked="" type="checkbox"/>	活動報告書を作成し、園のホームページ等で公表した。	
		公表したホームページ等のURL	https://niliabunny.com/nakameguro/

2. 活動報告（注1）

番号	1					
テーマ	五感					
実施回数・期間 (注2)	合計1回（内訳：12月1回）/令和7年12月10日					
対象クラス・ 対象人数	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス
	5人	10人	11人	11人	7人	8人
活動内容 (注3)	<p>フラワー体験は昨年も行いました。昨年は2歳～5歳クラスのみ参加でしたが今年は0歳1歳の子どもも参加しました。0歳1歳のお友達はクリスマスツリーのボトルに思い思い好きな花を敷き詰めていました。</p> <p>2歳～5歳のお友達はサンタやトナカイ付の可愛いリースを作りました。子ども達はフラワー体験をする中で、クリスマスの待ち遠しい気持ちを更に膨らませている様子でした。</p>					
活動における チェックリスト	<input checked="" type="checkbox"/> グループ単位での活動等により、乳幼児同士の対話、関わりを促した。					
	※乳幼児同士の関わりを促すためにどのような工夫をしたか 作品を作った後は他クラスの作品を皆で見に行く。他クラスの作品を見て花の奇麗さにうっとりとしていた。					
	<input checked="" type="checkbox"/> 活動中の乳幼児の言葉、表情、ジェスチャー等の表現に着目し、メモ・写真・映像等で記録した。					
	※記録をどのように行ったか 活動の様子を写真で取り、後日HPやインスタにその日の様子をアップした。保護者からも小さいクラスの子でも貴重な経験が出来た事で感謝の声をいただいた。					
	<input checked="" type="checkbox"/> 乳幼児一人ひとりが主体的に活動できるよう配慮した声掛け等を行った。					
	※主体的な活動のためにどのような工夫をしたか 子ども達が花を身近に感じられる様に、散歩先等で色々な花に目を止める機会を意識して作っている。					
	<input checked="" type="checkbox"/> 記録をもとに、乳幼児の関心や発見、表現を振り返った。					
	※振り返りの実施方法 職員会議等で、職員同士反省や改善点などを話し合った。記録をもとに、子どもたち一人ひとりの興味や関心が広がるよう、次の活動へのヒントになるアイデアを出し合った。					
	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園等の各施設の教諭同士や保護者等に、探究活動の内容を共有した。					
	※教諭や保護者等への共有方法 保護者に対しては、園のすくわくコーナーを設け、探究活動の様子を周知した。加えて、園のホームページやインスタにおいても活動内容を随時掲載した。					
<input checked="" type="checkbox"/> 次の探究活動の更なる充実に向け、新たな問いや環境の構成を考えた。						
※継続的な実施のための工夫 子どもたちと振り返りを行い、次にどんな活動を行いたいと話した。また、草花に触れる機会を意識して設けている。						

（注1）活動報告は、複数の活動内容を実施した場合は、活動ごとに記入してください。

（注2）「実施回数・期間」欄には、今年度に継続的（月を単位とする複数月）に実施した取組の実施状況を記入してください。なお、原則、単発で実施した取組については対象になりません。

（注3）「活動内容」欄には、どのような取組を行ったのかがわかるよう記入してください。また、活動報告書等、取組を行ったことがわかる書類の写しを提出してください。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-〇〇〇〇
施設名	BunBu学院Jr.中目黒園
施設所在地	東京都目黒区青葉台1-15-14
法人名	株式会社BunBuKids

1. 活動のテーマ

<テーマ>

五感

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)	フラ
ワー体験は昨年も行いました。昨年は2歳～5歳クラスのみ参加でしたが今年は0歳1歳の子どもも参加しました。0歳1歳のお友達はクリスマスツリーのボトルに思い思い好きな花を敷き詰めていました。	
2歳～5歳のお友達はサンタやトナカイ付の可愛いリースを作りました。	
子ども達はフラワー体験をする中で、クリスマスの待ち遠しい気持ちを更に膨らませている様子でした。	

2. 活動スケジュール

12/10	10:00～	0・1歳
	10:30～	2・3歳
	11:15～	4・5歳

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
昨年度は2歳～5歳のみ活動であったが、今年度は0・1歳も活動に参加した。0・1歳も職員が側につき事で各々楽しみながらフラワー制作を行う事が出来た。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

戸外では自然物(花や青空など)、室内ではお絵描きなどで色に対して興味や関心が広がっていた。実際にフラワー体験をすると、早くやりたくてウズウズしている子どもの様子が伺えた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

花の色を子どもと言い合ったり、綺麗な花を一緒に見て、花や色々な色に興味や関心が強まっていった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

普段から、知育活動等でしっかり座って話を聞くことが出来るように経験を積んでいた。その事もあってか、小さい子どもでも職員が付いたり、環境を整える事でスムーズに行う事ができた。綺麗な物を自分自身で作る事の喜びを感じてくれた事と思う。

実施報告書

記入例：テーマ「光」

1. 確認事項等

施設番号	66-〇〇〇〇	
施設名	BunBu学院Jr.中目黒園	
施設所在地	東京都目黒区青葉台1-15-14	
法人名	株式会社BunBuKids	
活動期間	令和 6 年 6 月 から 令和 7 年 3 月	
活動内容の公表	<input checked="" type="checkbox"/>	活動報告書を作成し、園のホームページ等で公表した。
	公表したホームページ等のURL	https://niliabunny.com/nakameguro/

2. 活動報告（注1）

番号	1					
テーマ	五感					
実施回数・期間 (注2)	合計1回（内訳：12月1回）/令和7年12月2日					
対象クラス・ 対象人数	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス
	5人	10人	11人	11人	7人	8人
活動内容 (注3)	先日、菅刈公園にて火災時の煙を想定した煙ハウスの体験をしました。子ども達は実際の煙で視界が遮られる体験をしてきました。そしてこの日の、その煙体験や日々の防災訓練の経験を活かして安田大サーカスの団長が防災についての話をしに来てくれました。子ども達は防災について、時折団長がユーモアを交えながら話をするので盛り上がりつつも、自分の体験している事を思い出しながら一生懸命に話を聞いていました。					
活動における チェックリスト	<input checked="" type="checkbox"/> グループ単位での活動等により、乳幼児同士の対話、関わりを促した。					
	※乳幼児同士の関わりを促すためにどのような工夫をしたか 団長の話の後に、乳幼児を交えて振り返りをした。子ども達からも様々な意見を出し合ってもらった。					
	<input checked="" type="checkbox"/> 活動中の乳幼児の言葉、表情、ジェスチャー等の表現に着目し、メモ・写真・映像等で記録した。					
	※記録をどのように行ったか 活動の様子を写真で取り、後日HPやインスタにその日の様子をアップした。保護者からも貴重な経験が出来た事で感謝の声をいただいた。					
	<input checked="" type="checkbox"/> 乳幼児一人ひとりが主体的に活動できるよう配慮した声掛け等を行った。					
	※主体的な活動のためにどのような工夫をしたか 子ども達が防災意識を高められるように散歩先や室内でも生活の中で繰り返し非常時の約束などを話している。					
	<input checked="" type="checkbox"/> 記録をもとに、乳幼児の関心や発見、表現を振り返った。					
	※振り返りの実施方法 職員会議等で、職員同士反省や改善点などを話し合った。記録をもとに、子どもたち一人ひとりの興味や関心が広がるよう、次の活動へのヒントになるアイデアを出し合った。					
	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園等の各施設の教諭同士や保護者等に、探究活動の内容を共有した。					
	※教諭や保護者等への共有方法 保護者に対しては、園のすくわくコーナーを設け、探究活動の様子を周知した。加えて、園のホームページやインスタにおいても活動内容を随時掲載した。					
<input checked="" type="checkbox"/> 次の探究活動の更なる充実に向け、新たな問いや環境の構成を考えた。						
※継続的な実施のための工夫 子どもたちと振り返りを行い、次にどんな活動を行いたいと話した。また、活動に連続性を持たせられるように、今回の学びを次回にも活かせるように環境設定を工夫し、活動を発展させた。						

（注1）活動報告は、複数の活動内容を実施した場合は、活動ごとに記入してください。

（注2）「実施回数・期間」欄には、今年度に継続的（月を単位とする複数月）に実施した取組の実施状況を記入してください。なお、原則、単発で実施した取組については対象になりません。

（注3）「活動内容」欄には、どのような取組を行ったのかがわかるよう記入してください。また、活動報告書等、取組を行ったことがわかる書類の写しを提出してください。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-〇〇〇〇
施設名	BunBu学院Jr.中目黒園
施設所在地	東京都目黒区青葉台1-15-14
法人名	株式会社BunBuKids

1. 活動のテーマ

<テーマ>

五感

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など) 昨前
年度は起震車の体験をして、今年度は煙の体験を行った。その経験と、月に一回行っている防災訓練を踏まえて、様々な取り組みにより防災への意識や関心を高めたいと考えていた。その為、防災士の資格を持つ安田大サーカスの団長から、笑いありの斬新な防災の話聞かせてもらった。

2. 活動スケジュール

10:00～ 団長の話 (クイズ形式の参加型の体験も行った)

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具) 昨
年度は起震車体験、今年度は煙体験、毎月の防災訓練等、日々の防災意識の取り組みを園全体で意識して取り組んでいる。加えて、散歩の際や実際に地震が起きた際には都度避難の仕方などをクラスで話し合っている。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

普段の真剣な防災の話も大切だが、お笑い芸人さんがユーモアを交えながら楽しく学びを深める事が出来て、いつもと違う学びを得る事が出来た。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等) 団
長の話で終始笑いが起きたり、子どもの近くに来てスキンシップを取りつつ防災の話をしてくれた。その為、いつもと違う雰囲気です。防災の話が聞けた。

活動 (HPなどで公開) する写 あり 貼付し 開可能 ください。)



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

楽しみながら笑いもあったこの日の話の後に振り返りを行ったが、どの子も思っていた以上に防災対策の話から自ら進んで話してくれた。子どもにとって楽しみながら学ぶ事は理解を深める為にもとても大切なのだと改めて気づかされた。

実施報告書

1. 確認事項等

施設番号	66-〇〇〇〇		
施設名	BunBu学院Jr.中目黒園		
施設所在地	東京都目黒区青葉台1-15-14		
法人名	株式会社BunBuKids		
活動期間	令和 7 年 6 月 から 令和 8 年 3 月		
活動内容の公表	<input checked="" type="checkbox"/>	活動報告書を作成し、園のホームページ等で公表した。	
		公表したホームページ等のURL	https://niliabunny.com/nakameguro/

別シート「注

「公表したホームページのきょうすくわく認できるページ

2. 活動報告（注1）

番号	1					
テーマ	五感					
実施回数・期間 (注2)	計4回（9月1回・10月1回・1月1回・2月1回） 令和7年9月～令和8年2月まで					
対象クラス・ 対象人数	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス
	人	人	11人	11人	人	人
活動内容 (注3)	「2・3歳児が楽しめる」をテーマに、松竹芸能の大林ひよと子さんのネタをもとに、メロディーのテンポを工夫したり、かけ声のバリエーションを増やしたり、子ども達が夢中になって楽しめる動きを加えながら、年齢に合わせたバージョンにアレンジし、芸人さんと子ども達と一緒に「ひよっこ体操」作り上げ、全国に広めていく。					
	<input checked="" type="checkbox"/> グループ単位での活動等により、乳幼児同士の対話、関わりを促した。 ※乳幼児同士の関わりを促すためにどのような工夫をしたか。 活動のカリキュラムに「ひよっこ体操」の時間を設け、日々体操に触れることで、子ども達同士でロズさんたり、踊ったりする姿が見られるようになっていった。 また、ネタの中に出てくる「ひだり」のかけ声を気に入るようになってきたため、活動の切り替え時や、注目を集める際に使うことで、より一層親しみが湧いていった。					
	<input type="checkbox"/> 活動中の乳幼児の言葉、表情、ジェスチャー等の表現に着目し、メモ・写真・映像等で記録した。 ※記録をどのように行ったか。 活動の様子は写真や動画に残し、Instagramや園内掲示等で保護者や園見学者にも共有した。					
	<input checked="" type="checkbox"/> 乳幼児一人ひとりが主体的に活動できるよう配慮した声掛け等を行った。 ※主体的な活動のためにどのような工夫をしたか ネタのメロディーや動きには子どもたちも興味を示し楽しんでいましたが、大人が「ひよっこ」のお面を付けている姿を怖がる子もいたため、遊びの中でお面を使ったり、保育者がお面を付けて一緒に踊るなどし、日々「ひよっこ」に親しめる機会を作っていた。また、「大林ひよと子」ご本人と対面する際には、「怖い」というイメージがつかないよう、予め芸人さんと打ち合わせを行い、登場の際には、子ども達の視線に合わせて小さくならせたり、子ども達に迎えに行ってもらおう等、様々な工夫を行うことで、泣いたり怖がる子も少なく、自らひよっこに関わりを求めに行く子の姿も見られた。					
	<input checked="" type="checkbox"/> 記録をもとに、乳幼児の関心や発見、表現を振り返った。 ※振り返りの実施方法 子ども達と一緒に実践する中で、メロディーのテンポやカウントの取り方などを試行錯誤し、子ども達の反応を見ながら良いものへと作り上げていった。 また、写真や動画を見て子ども達と一緒に振り返りも行った。					
	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園等の各施設の教諭同士や保護者等に、探究活動の内容を共有した。 ※教諭や保護者等への共有方法 SNSで子ども達の活動内容を発信したり、発表会にて保護者の前で披露すると共に、保護者も一緒に巻き込んで楽しんでもらえるように工夫した。					
	<input checked="" type="checkbox"/> 次の探究活動の更なる充実に向け、新たな問いや環境の構成を考えた。 ※継続的な実施のための工夫 当園の子ども達だけでなく、多くの子ども達にも「ひよっこ体操」を楽しんでもらうべく、2・3歳児以外のクラスでも実践してみたり、保育者や保護者など大人が踊ってみたりなどし、常に新しい発見を見つけながらより良いものへとしていくと共に、「ひよっこ体操」がより分かりやすく伝えられるよう、PV等の作成も視野に入れて進めていく。					

(注1) 活動報告は、複数の活動内容を実施した場合は、活動ごとに記入してください。

(注2)「実施回数・期間」欄には、今年度に継続的(月を単位とする複数月)に実施した取組の実施状況を記入してください。なお、原則、単発で実施した取組については対象になりません。

(注3)「活動内容」欄には、どのような取組を行ったのかがわかるよう記入してください。また、活動報告書等、取組を行ったことがわかる書類の写しを提出してください。

テーマが複数
用してください

2. 活動報告（注1）

番号	2					
テーマ						
実施回数・期間 (注2)						
対象クラス・ 対象人数	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス
	人	人	人	人	人	人
活動内容 (注3)						
活動における チェックリスト	グループ単位での活動等により、乳幼児同士の対話、関わりを促した。					
	※乳幼児同士の関わりを促すためにどのような工夫をしたか					
	活動中の乳幼児の言葉、表情、ジェスチャー等の表現に着目し、メモ・写真・映像等で記録した。					
	※記録をどのように行ったか					
	乳幼児一人ひとりが主体的に活動できるよう配慮した声掛け等を行った。					
	※主体的な活動のためにどのような工夫をしたか					
	記録をもとに、乳幼児の関心や発見、表現を振り返った。					
	※振り返りの実施方法					
	幼稚園等の各施設の教諭同士や保護者等に、探究活動の内容を共有した。					
※教諭や保護者等への共有方法						
次の探究活動の更なる充実に向け、新たな問いや環境の構成を考えた。						
※継続的な実施のための工夫						

(注1) 活動報告は、複数の活動内容を実施した場合は、活動ごとに記入してください。
(注2) 「実施回数・期間」欄には、今年度に継続的（月を単位とする複数月）に実施した取組の実施状況を記入してください。なお、原則、単発で実施した取組については対象になりません。
(注3) 「活動内容」欄には、どのような取組を行ったのかがわかるよう記入してください。また、活動報告書等、取組を行ったことがわかる書類の写しを提出してください。

2. 活動報告（注1）

番号	3					
テーマ						
実施回数・期間 (注2)						
対象クラス・ 対象人数	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス
	人	人	人	人	人	人
活動内容 (注3)						
活動における チェックリスト	グループ単位での活動等により、乳幼児同士の対話、関わりを促した。 ※乳幼児同士の関わりを促すためにどのような工夫をしたか					
	活動中の乳幼児の言葉、表情、ジェスチャー等の表現に着目し、メモ・写真・映像等で記録した。 ※記録をどのように行ったか					
	乳幼児一人ひとりが主体的に活動できるよう配慮した声掛け等を行った。 ※主体的な活動のためにどのような工夫をしたか					
	記録をもとに、乳幼児の関心や発見、表現を振り返った。 ※振り返りの実施方法					
	幼稚園等の各施設の教諭同士や保護者等に、探究活動の内容を共有した。 ※教諭や保護者等への共有方法					
	次の探究活動の更なる充実に向け、新たな問いや環境の構成を考えた。 ※継続的な実施のための工夫					

（注1）活動報告は、複数の活動内容を実施した場合は、活動ごとに記入してください。

（注2）「実施回数・期間」欄には、今年度に継続的（月を単位とする複数月）に実施した取組の実施状況を記入してください。なお、原則、単発で実施した取組については対象になりません。

（注3）「活動内容」欄には、どのような取組を行ったのかがわかるよう記入してください。また、活動報告書等、取組を行ったことがわかる書類の写しを提出してください。

テーマが4つ以
上
ピーして作成し

活動報告書」も作成してください

ムページ等のURL」欄には、法人の
トップページのURLではなく、とう
プログラム推進事業の実施内容が確
のURLを記載してください。

ある場合は、下記活動報告を使い。

上ある場合は、各活動報告を
てください。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-〇〇〇〇
施設名	BunBu学院Jr.中目黒園
施設所在地	東京都目黒区青葉台1-15-14
法人名	株式会社ニリア・バニー

1. 活動のテーマ

<テーマ>

五感

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
日本の伝統文化に触れる大切な機会であり「2・3歳児が楽しめる」をテーマに、松竹芸能の大林ひよと子さんと子ども達と一緒に「ひよっこ体操」作り上げ、全国に広めていく。

2. 活動スケジュール

園のクラスで体験、ひよっこについて説明があり、実際にどのようなものを体験していく
写真撮影

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
ひよっこのお面を人数分用意し、法被や手ぬぐいなどの衣装も準備しました。音楽を流すためのスピーカーを設置し、安全に踊れるよう十分なスペースを確保しました。事前に写真や絵本で由来を紹介し、鏡をみて自分の表情を見て確認していました。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

ひょっとこの由来を簡単に紹介した後、音楽に合わせて踊りを体験しました。お面を付けると自然と笑顔が広がり、友達の動きを真似しながら楽しむ姿が見られました。恥ずかしがる子もいましたが、保育者がそばで優しく声をかけることで安心して参加し、最後はみんなで円になって元気に踊りました。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

お面を付けると「おもしろい顔になった!」「もう一回やりたい!」と嬉しそうな声が聞かれました。友達同士で顔を見合わせて笑い合ったり、「こうやるんだよ」と動きを教え合ったりする姿も見られました。最初は恥ずかしそうにしていた子も、保育者が隣で一緒に踊り「じょうずだね」と声をかけることで安心し、少しずつ体を動かしていました。活動を通して、子ども同士の関わりや笑顔が広がる時間となりました。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

お面を付けることで気持ちが開放され、子どもたちの表現がより豊かになることに気づきました。友達と一緒に取り組むことで安心感が生まれ、挑戦する意欲につながっていました。伝統文化に触れる経験が自信や達成感を育む大切な機会になることを改めて感じました。

実施報告書

1. 確認事項等

施設番号	66-〇〇〇〇		
施設名	BunBu学院Jr.中目黒園		
施設所在地	東京都目黒区青葉台1-15-14		
法人名	株式会社BunBuKids		
活動期間	令和 7 年 6 月 から 令和 8 年 3 月		
活動内容の公表	<input checked="" type="checkbox"/>	活動報告書を作成し、園のホームページ等で公表した。	
		公表したホームページ等のURL	

2. 活動報告（注1）

番号	1											
テーマ	五感											
実施回数・期間 （注2）	合計5回（内訳：9月1回、10月1回、11月2回、12月1回）/令和7年9月から令和7年12月まで											
対象クラス・ 対象人数	0歳児クラス		1歳児クラス		2歳児クラス		3歳児クラス		4歳児クラス		5歳児クラス	
	0	人	0	人	0	人	0	人	7	人	0	人
活動内容 （注3）	松竹芸能のお笑い芸人(大吟嬢)から、自己紹介・モノボケ・ツッコミなどのお笑いを学び、発表会でコンビ・トリオを組んで漫才を発表した。今後人前に出て発表や活動をする機会が増えていくなか、人前に出ることへの苦手意識を少しでも減らし、聞く立場になっても相手を思いやることができるよう、活動の約束なども教えてもらった。											
活動における チェックリスト	<input checked="" type="checkbox"/>	グループ単位での活動等により、乳幼児同士の対話、関わりを促した。										
		※乳幼児同士の関わりを促すためにどのような工夫をしたか 発表会の練習を乳児クラスにも見てもらう機会を数回設けた。										
	<input checked="" type="checkbox"/>	活動中の乳幼児の言葉、表情、ジェスチャー等の表現に着目し、メモ・写真・映像等で記録した。										
		※記録をどのように行ったか 活動の様子を撮影し、日々のドキュメンテーションや写真公開に使った。										
	<input checked="" type="checkbox"/>	乳幼児一人ひとりが主体的に活動できるよう配慮した声掛け等を行った。										
		※主体的な活動のためにどのような工夫をしたか 保育者も活動に参加し、一緒にお笑いをすることで、緊張や恥ずかしさも一緒に楽しめるようにした。										
<input checked="" type="checkbox"/>	記録をもとに、乳幼児の関心や発見、表現を振り返った。											
	※振り返りの実施方法											

笑育の活動以外の時間にも、プログラムを使って自己紹介をしたり、身の回りにあるものでモノボケを考えるなど、日々の保育にもお笑いを取り入れた。	
✓	幼稚園等の各施設の教諭同士や保護者等に、探究活動の内容を共有した。
※教諭や保護者等への共有方法 保護者に対しては、ドキュメンテーションで写真を使って活動の様子を伝えたり、お迎え時に個人の様子を伝えた。職員に対しては、練習を見てもらったり、活動の動画を共有するなどした。	
✓	次の探究活動の更なる充実に向け、新たな問いや環境の構成を考えた。
※継続的な実施のための工夫 該当クラスにおいては、活動の様子を子どもたちと一緒に振り返り、日々の保育でも笑育で学んだことを活かしている。	

(注1) 活動報告は、複数の活動内容を実施した場合は、活動ごとに記入してください。

(注2) 「実施回数・期間」欄には、今年度に継続的(月を単位とする複数月)に実施した取組の実施回数を記入してください。なお、原則、単発で実施した取組については対象になりません。

(注3) 「活動内容」欄には、どのような取組を行ったのかがわかるよう記入してください。また、活動報告書等、取組を行ったことがわかる書類の写しを提出してください。

2. 活動報告(注1)

番号	2											
テーマ												
実施回数・期間 (注2)												
対象クラス・ 対象人数	0歳児クラス		1歳児クラス		2歳児クラス		3歳児クラス		4歳児クラス		5歳児クラス	
		人		人		人		人		人		人
活動内容 (注3)												
	グループ単位での活動等により、乳幼児同士の対話、関わりを促した。											
	※乳幼児同士の関わりを促すためにどのような工夫をしたか											
	活動中の乳幼児の言葉、表情、ジェスチャー等の表現に着目し、メモ・写真・映像等で記録した。											
	※記録をどのように行ったか											
	乳幼児一人ひとりが主体的に活動できるよう配慮した声掛け等を行った。											

活動における チェックリスト	※主体的な活動のためにどのような工夫をしたか
	記録をもとに、乳幼児の関心や発見、表現を振り返った。
	※振り返りの実施方法
	幼稚園等の各施設の教諭同士や保護者等に、探究活動の内容を共有した。
	※教諭や保護者等への共有方法
	次の探究活動の更なる充実に向け、新たな問いや環境の構成を考えた。
	※継続的な実施のための工夫

（注1）活動報告は、複数の活動内容を実施した場合は、活動ごとに記入してください。

（注2）「実施回数・期間」欄には、今年度に継続的（月を単位とする複数月）に実施した取組の実施状況を記入してください。なお、原則、単発で実施した取組については対象になりません。

（注3）「活動内容」欄には、どのような取組を行ったのかがわかるよう記入してください。また、活動報告書等、取組を行ったことがわかる書類の写しを提出してください。

2. 活動報告（注1）

番号	3											
テーマ												
実施回数・期間 (注2)												
対象クラス・ 対象人数	0歳児クラス		1歳児クラス		2歳児クラス		3歳児クラス		4歳児クラス		5歳児クラス	
		人		人		人		人		人		人
活動内容 (注3)												
活動における チェックリスト	グループ単位での活動等により、乳幼児同士の対話、関わりを促した。											
	※乳幼児同士の関わりを促すためにどのような工夫をしたか											
	活動中の乳幼児の言葉、表情、ジェスチャー等の表現に着目し、メモ・写真・映像等で記録した。											
	※記録をどのように行ったか											
	乳幼児一人ひとりが主体的に活動できるよう配慮した声掛け等を行った。											
	※主体的な活動のためにどのような工夫をしたか											
	記録をもとに、乳幼児の関心や発見、表現を振り返った。											
	※振り返りの実施方法											
幼稚園等の各施設の教諭同士や保護者等に、探究活動の内容を共有した。												
※教諭や保護者等への共有方法												
次の探究活動の更なる充実に向け、新たな問いや環境の構成を考えた。												
※継続的な実施のための工夫												

(注1) 活動報告は、複数の活動内容を実施した場合は、活動ごとに記入してください。

(注2) 「実施回数・期間」欄には、今年度に継続的(月を単位とする複数月)に実施した取組の実施状況を記入してください。なお、原則、単発で実施した取組については対象になりません。

(注3) 「活動内容」欄には、どのような取組を行ったのかがわかるよう記入してください。また、活動報告書等、取組を行ったことがわかる書類の写しを提出してください。

別シート「活動報告書」も作成してください

「公表したホームページ等のURL」欄には、法人のホームページのトップページではなく、とうきょうすくわくプログラム推進事業の実施内容が確認できるURLを記載してください。

犬況

テーマが複数ある場合は、下記活動報告を使用してください。

犬況

犬況

テーマが4つ以上ある場合は、各活動報告をコピーして作成してください。



-ジのURL
ページの



)

)

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-〇〇〇〇
施設名	BunBu学院Jr.中目黒園
施設所在地	東京都目黒区青葉台1-15-14
法人名	株式会社ニリア・バニー

1. 活動のテーマ

<テーマ>

五感

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
日頃から子ども達の間でお笑いの真似や言葉遊びが流行しており、人前で表現することへの関心の高さが見られました。そこで園ならではの温かい雰囲気の中で、楽しみながら表現力や協調性を育てたいと考え「笑育」をテーマに設定しました。また、発表の機会が増える就学前に自信を育てたいという思いも込めました。

2. 活動スケジュール

初回は松竹芸能の芸人による自己紹介とお笑いの基本指導を受けました。その後、モノボケやツッコミの練習を行い、保育士と一緒にコンビやトリオを結成しました。数回の練習日を設けて構成を考え、リハーサルを経て発表会当日に披露する流れで進めました。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

子ども達が本番を意識できるよう、簡易マイクや舞台スペースを用意しました。モノボケ用の小道具や衣装も準備し、自由に選べる環境を整えました。また、安心して意見を出せるよう円形に座る場を作りなど、保育士が間に入りながら話し合いがしやすい雰囲気を大切にしました。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

芸人から自己紹介の工夫や間の取り方、ツッコミの言い方などを学びました。その後、子ども達同士で役割を決め、保育士と相談しながらネタ作りを進めました。繰り返し練習する中で表現を工夫し、自分達らしい漫才を完成させ、発表会で堂々と披露しました。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

「もっと大きな声で言ってみようか」「ここでツッコむ？」と友達同士で意見を出し合う姿が見られました。緊張する子には保育士がそっと寄り添い励ますことで、安心して挑戦する様子もありました。成功すると皆で笑い合い、達成感を共有していました。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

当日の様子をSNS・園の連絡・お迎え時などに保護者様にも共有いただきました。子ども達は安心できる環境があることで、自分の思いを積極的に表現できることを改めて実感しました。失敗を恐れず挑戦する姿や、友達を思いやりながら話を聞く態度も育っていました。笑いを通して自己肯定感や協調性が深まる貴重な機会となりました。

実施報告書

1. 確認事項等

施設番号	66-〇〇〇〇		
施設名	BunBu学院Jr.中目黒園		
施設所在地	東京都目黒区青葉台1-15-14		
法人名	株式会社BunBuKids		
活動期間	令和 7 年 2 月 から 令和 8 年 3 月		
活動内容の公表	<input checked="" type="checkbox"/>	活動報告書を作成し、園のホームページ等で公表した。	
		公表したホームページ等のURL	

2. 活動報告（注1）

番号	1											
テーマ	五感											
実施回数・期間 （注2）	合計5回（内訳：9月1回、10月1回、11月2回、12月1回）/令和7年9月から令和7年12月まで											
対象クラス・ 対象人数	0歳児クラス		1歳児クラス		2歳児クラス		3歳児クラス		4歳児クラス		5歳児クラス	
	0	人	0	人	0	人	0	人	0	人	8	人
活動内容 （注3）	松竹芸能のお笑い芸人(大吟嬢)から、自己紹介・モノボケ・ツッコミなどのお笑いを学び、発表会でコンビ・トリオを組んで漫才を発表した。今後人前に出て発表や活動をする機会が増えていくなか、人前に出ることへの苦手意識を少しでも減らし、聞く立場になっても相手を思いやることができるよう、活動の約束なども教えてもらった。											
活動における チェックリスト	<input checked="" type="checkbox"/>	グループ単位での活動等により、乳幼児同士の対話、関わりを促した。										
		※乳幼児同士の関わりを促すためにどのような工夫をしたか 発表会の練習を乳児クラスにも見てもらう機会を数回設けた。										
	<input checked="" type="checkbox"/>	活動中の乳幼児の言葉、表情、ジェスチャー等の表現に着目し、メモ・写真・映像等で記録した。										
		※記録をどのように行ったか 活動の様子を撮影し、日々のドキュメンテーションや写真公開に使った。										
	<input checked="" type="checkbox"/>	乳幼児一人ひとりが主体的に活動できるよう配慮した声掛け等を行った。										
		※主体的な活動のためにどのような工夫をしたか 保育者も活動に参加し、一緒にお笑いをすることで、緊張や恥ずかしさも一緒に楽しめるようにした。										
	<input checked="" type="checkbox"/>	記録をもとに、乳幼児の関心や発見、表現を振り返った。										
		※振り返りの実施方法										

笑育の活動以外の時間にも、プログラムを使って自己紹介をしたり、身の回りにあるものでモノボケを考えるなど、日々の保育にもお笑いを取り入れた。	
✓	幼稚園等の各施設の教諭同士や保護者等に、探究活動の内容を共有した。
※教諭や保護者等への共有方法 保護者に対しては、ドキュメンテーションで写真を使って活動の様子を伝えたり、お迎え時に個人の様子を伝えた。職員に対しては、練習を見てもらったり、活動の動画を共有するなどした。	
✓	次の探究活動の更なる充実に向け、新たな問いや環境の構成を考えた。
※継続的な実施のための工夫 該当クラスにおいては、活動の様子を子どもたちと一緒に振り返り、日々の保育でも笑育で学んだことを活かしている。	

(注1) 活動報告は、複数の活動内容を実施した場合は、活動ごとに記入してください。

(注2) 「実施回数・期間」欄には、今年度に継続的(月を単位とする複数月)に実施した取組の実施状況を記入してください。なお、原則、単発で実施した取組については対象になりません。

(注3) 「活動内容」欄には、どのような取組を行ったのかがわかるよう記入してください。また、活動報告書等、取組を行ったことがわかる書類の写しを提出してください。

2. 活動報告(注1)

番号	2											
テーマ												
実施回数・期間 (注2)												
対象クラス・ 対象人数	0歳児クラス		1歳児クラス		2歳児クラス		3歳児クラス		4歳児クラス		5歳児クラス	
		人		人		人		人		人		人
活動内容 (注3)												
	グループ単位での活動等により、乳幼児同士の対話、関わりを促した。											
	※乳幼児同士の関わりを促すためにどのような工夫をしたか											
	活動中の乳幼児の言葉、表情、ジェスチャー等の表現に着目し、メモ・写真・映像等で記録した。											
	※記録をどのように行ったか											
	乳幼児一人ひとりが主体的に活動できるよう配慮した声掛け等を行った。											

活動における チェックリスト	※主体的な活動のためにどのような工夫をしたか
	記録をもとに、乳幼児の関心や発見、表現を振り返った。
	※振り返りの実施方法
	幼稚園等の各施設の教諭同士や保護者等に、探究活動の内容を共有した。
	※教諭や保護者等への共有方法
	次の探究活動の更なる充実に向け、新たな問いや環境の構成を考えた。
	※継続的な実施のための工夫

（注1）活動報告は、複数の活動内容を実施した場合は、活動ごとに記入してください。

（注2）「実施回数・期間」欄には、今年度に継続的（月を単位とする複数月）に実施した取組の実施状況を記入してください。なお、原則、単発で実施した取組については対象になりません。

（注3）「活動内容」欄には、どのような取組を行ったのかがわかるよう記入してください。また、活動報告書等、取組を行ったことがわかる書類の写しを提出してください。

2. 活動報告（注1）

番号	3										
テーマ											
実施回数・期間 (注2)											
対象クラス・ 対象人数	0歳児クラス		1歳児クラス		2歳児クラス		3歳児クラス		4歳児クラス		5歳児クラス
		人		人		人		人		人	人
活動内容 (注3)											
活動における チェックリスト	グループ単位での活動等により、乳幼児同士の対話、関わりを促した。										
	※乳幼児同士の関わりを促すためにどのような工夫をしたか										
	活動中の乳幼児の言葉、表情、ジェスチャー等の表現に着目し、メモ・写真・映像等で記録した。										
	※記録をどのように行ったか										
	乳幼児一人ひとりが主体的に活動できるよう配慮した声掛け等を行った。										
	※主体的な活動のためにどのような工夫をしたか										
	記録をもとに、乳幼児の関心や発見、表現を振り返った。										
	※振り返りの実施方法										
幼稚園等の各施設の教諭同士や保護者等に、探究活動の内容を共有した。											
※教諭や保護者等への共有方法											
次の探究活動の更なる充実に向け、新たな問いや環境の構成を考えた。											
※継続的な実施のための工夫											

(注1) 活動報告は、複数の活動内容を実施した場合は、活動ごとに記入してください。

(注2) 「実施回数・期間」欄には、今年度に継続的(月を単位とする複数月)に実施した取組の実施状況を記入してください。なお、原則、単発で実施した取組については対象になりません。

(注3) 「活動内容」欄には、どのような取組を行ったのかがわかるよう記入してください。また、活動報告書等、取組を行ったことがわかる書類の写しを提出してください。

別シート「活動報告書」も作成してください

「公表したホームページ等のURL」欄には、法人のホームページのトップページではなく、とうきょうすくわくプログラム推進事業の実施内容が確認できるURLを記載してください。

犬況

テーマが複数ある場合は、下記活動報告を使用してください。

犬況

犬況

テーマが4つ以上ある場合は、各活動報告をコピーして作成してください。



-ジのURL
ページの



)

)

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-〇〇〇〇
施設名	BunBu学院Jr.中目黒園
施設所在地	東京都目黒区青葉台1-15-14
法人名	株式会社ニリア・バニー

1. 活動のテーマ

<テーマ>

五感

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
日頃から子ども達の間でお笑いの真似や言葉遊びが流行しており、人前で表現することへの関心の高さが見られました。そこで園ならではの温かい雰囲気の中で、楽しみながら表現力や協調性を育てたいと考え「笑育」をテーマに設定しました。また、発表の機会が増える就学前に自信を育てたいという思いも込めました。

2. 活動スケジュール

初回は松竹芸能の芸人による自己紹介とお笑いの基本指導を受けました。その後、モノボケやツッコミの練習を行い、保育士と一緒にコンビやトリオを結成しました。数回の練習日を設けて構成を考え、リハーサルを経て発表会当日に披露する流れで進めました。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

子ども達が本番を意識できるよう、簡易マイクや舞台スペースを用意しました。モノボケ用の小道具や衣装も準備し、自由に選べる環境を整えました。また、安心して意見を出せるよう円形に座る場を作りなど、保育士が間に入りながら話し合いがしやすい雰囲気を大切にしました。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

芸人から自己紹介の工夫や間の取り方、ツッコミの言い方などを学びました。その後、子ども達同士で役割を決め、保育士と相談しながらネタ作りを進めました。繰り返し練習する中で表現を工夫し、自分達らしい漫才を完成させ、発表会で堂々と披露しました。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

「もっと大きな声で言ってみようか」「ここでツッコむ？」と友達同士で意見を出し合う姿が見られました。緊張する子には保育士がそっと寄り添い励ますことで、安心して挑戦する様子もありました。成功すると皆で笑い合い、達成感を共有していました。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

当日の様子をSNS・園の連絡・お迎え時などに保護者様にも共有いただきました。子ども達は安心できる環境があることで、自分の思いを積極的に表現できることを改めて実感しました。失敗を恐れず挑戦する姿や、友達を思いやりながら話を聞く態度も育っていました。笑いを通して自己肯定感や協調性が深まる貴重な機会となりました。

実施報告書

記入例：テーマ「光」

1. 確認事項等

施設番号	66-〇〇〇〇		
施設名	BunBu学院Jr.中目黒園		
施設所在地	東京都目黒区青葉台1-15-14		
法人名	株式会社BunBuKids		
活動期間	令和 6 年 6 月 から 令和 7 年 3 月		
活動内容の公表	<input checked="" type="checkbox"/>	活動報告書を作成し、園のホームページ等で公表した。	
		公表したホームページ等のURL	https://niliabunny.com/nakameguro/

2. 活動報告（注1）

番号	1					
テーマ	五感					
実施回数・期間 (注2)	合計6回（内訳：11月3回、1月2回、3月1回）/令和6年11月から令和7年3月まで					
対象クラス・ 対象人数	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス
	6人	10人	11人	10人	11人	10人
活動内容 (注3)	五感をテーマとして、匂いは人間の脳にダイレクトに働きかけ、記憶と直結しやすいことより、フラワーアレンジメントを体験しました。					
活動における チェックリスト	<input checked="" type="checkbox"/>	グループ単位での活動等により、乳幼児同士の対話、関わりを促した。				
		※乳幼児同士の関わりを促すためにどのような工夫をしたか グループでの活動をし、質問など、子供たちが自分の考えや表現を友達や保育者に共有しながら活動を行うことにより、保育者や友達との関わりを促した。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	活動中の乳幼児の言葉、表情、ジェスチャー等の表現に着目し、メモ・写真・映像等で記録した。				
		※記録をどのように行ったか 活動の様子をタブレットを用い、写真などをHPに公開することにより、保護者からもご好評いただいた。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	乳幼児一人ひとりが主体的に活動できるよう配慮した声掛け等を行った。				
		※主体的な活動のためにどのような工夫をしたか 子供たちの好みに合わせ、色や素材を選んだりしながら自分の興味に基づいて自由に活動できる環境を整えた。また保育者は子供の主体性をもとに活動を展開し、見守ることを心掛けた。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	記録をもとに、乳幼児の関心や発見、表現を振り返った。				
		※振り返りの実施方法 子供たちの午睡の時間、降園後の時間等を活用し、撮影した写真や映像を見ながら、他クラスの担任等も交え、保育者同士で振り返りを行った。記録をもとに、子供たち一人ひとりが何に関心を持ち、どのようなアイデアを持っていたかについて理解を深めた。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	幼稚園等の各施設の教諭同士や保護者等に、探究活動の内容を共有した。				
		※教諭や保護者等への共有方法 保護者に対しては、園のすくわくコーナーを設け、探究活動の様子を周知した。加えて、園のホームページにおいても活動内容を随時掲載した。				
<input checked="" type="checkbox"/>	次の探究活動の更なる充実に向け、新たな問いや環境の構成を考えた。					
	※継続的な実施のための工夫 年齢問わず、子供たちの反応や興味関心に着目し、子供の言葉やアイデアを取り入れながら環境構成や活動内容を適宜工夫し、活動を発展させた。					

（注1）活動報告は、複数の活動内容を実施した場合は、活動ごとに記入してください。

（注2）「実施回数・期間」欄には、今年度に継続的（月を単位とする複数月）に実施した取組の実施状況を記入してください。なお、原則、単発で実施した取組については対象になりません。

（注3）「活動内容」欄には、どのような取組を行ったのかがわかるよう記入してください。また、活動報告書等、取組を行ったことがわかる書類の写しを提出してください。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-〇〇〇〇
施設名	BunBu学院Jr.中目黒園
施設所在地	東京都目黒区青葉台1-15-14
法人名	株式会社BunBuKids

1. 活動のテーマ

<テーマ>

五感

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

2. 活動スケジュール

--

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

活動の様子が分かる写真 2枚以上を貼付してください。
(HPなどで公開する可能性がありますので、公開可能なものを使用ください。)

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

実施報告書

記入例：テーマ「光」

1. 確認事項等

施設番号	66-〇〇〇〇		
施設名	BunBu学院Jr.中目黒園		
施設所在地	東京都目黒区青葉台1-15-14		
法人名	株式会社BunBuKids		
活動期間	令和 6 年 6 月 から 令和 7 年 3 月		
活動内容の公表	<input checked="" type="checkbox"/>	活動報告書を作成し、園のホームページ等で公表した。	
		公表したホームページ等のURL	http:// ……

2. 活動報告（注1）

番号	1					
テーマ	光					
実施回数・期間 （注2）	合計6回（内訳：7月1回、9月2回、10月2回、11月1回）/令和6年7月から令和6年11月まで					
対象クラス・ 対象人数	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス
	人	人	人	10人	20人	20人
活動内容 （注3）	紙や布など、透過性の異なる様々な素材に光を当てて影の変化を試したり、鏡を用いて光の屈折や反射などを試しながら、光と様々な物の関係性と変化について探究した。					
活動における チェックリスト	<input checked="" type="checkbox"/>	グループ単位での活動等により、乳幼児同士の対話、関わりを促した。				
		※乳幼児同士の関わりを促すためにどのような工夫をしたか グループに分けて活動を行い、子供たちが自分の考えや表現を友達や保育者に共有しながら活動を行うことにより、保育者や友達との関わりを促した。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	活動中の乳幼児の言葉、表情、ジェスチャー等の表現に着目し、メモ・写真・映像等で記録した。				
		※記録をどのように行ったか 子供たちの言葉をメモで記録するとともに、活動の様子をタブレットを用いて写真や映像にて記録した。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	乳幼児一人ひとりが主体的に活動できるよう配慮した声掛け等を行った。				
		※主体的な活動のためにどのような工夫をしたか 子供たちが自由に道具を使用したり、素材を選んだりしながら自分の興味に基づいて自由に活動できる環境を整えた。保育者は子供の主体性をもとに活動を展開し、見守ることを心掛けた。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	記録をもとに、乳幼児の関心や発見、表現を振り返った。				
		※振り返りの実施方法 子供たちの午睡の時間、降園後の時間等を活用し、撮影した写真や映像を見ながら、他クラスの担任等も交え、保育者同士で振り返りを行った。記録をもとに、子供たち一人ひとりが何に関心を持ち、どのようなアイデアを持っていたかについて理解を深めた。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	幼稚園等の各施設の教諭同士や保護者等に、探究活動の内容を共有した。				
		※教諭や保護者等への共有方法 保護者に対しては、園だよりをもって探究活動の様子を周知した。 加えて、園のホームページにおいても活動内容を随時掲載した。				
<input checked="" type="checkbox"/>	次の探究活動の更なる充実に向け、新たな問いや環境の構成を考えた。					
	※継続的な実施のための工夫 活動中の子供たちの反応や興味関心に着目し、子供の言葉やアイデアを取り入れながら環境構成や活動内容を適宜工夫し、活動を発展させた。					

（注1）活動報告は、複数の活動内容を実施した場合は、活動ごとに記入してください。

（注2）「実施回数・期間」欄には、今年度に継続的（月を単位とする複数月）に実施した取組の実施状況を記入してください。なお、原則、単発で実施した取組については対象になりません。

（注3）「活動内容」欄には、どのような取組を行ったのかがわかるよう記入してください。また、活動報告書等、取組を行ったことがわかる書類の写しを提出してください。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-〇〇〇〇
施設名	BunBu学院Jr.中目黒園
施設所在地	東京都目黒区青葉台1-15-14
法人名	株式会社BunBuKids

1. 活動のテーマ

<テーマ>

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

2. 活動スケジュール

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

活動の様子が分かる写真 2枚以上を貼付してください。
(HPなどで公開する可能性がありますので、公開可能なものを使用ください。)

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>